

## SKYMENU 活用授業 実践レポート

名前	向井 宏彰	学校名	習志野市立谷津小学校
実施学年	第2学年	教科	図工
題材名	コップくるくるチェンジ		

### 《学びを深めたいポイント》

- ・本題材では、紙コップに透明なコップを重ね、変化する絵を描いて楽しむ活動である。まず、仕組みを児童に理解させるために、見本を作成し、実際にコップを回している動画を紹介した。どのような仕組みで絵が変わっているかを児童同士で共有し、児童の関心と意欲を引き出した。次に、どのようにすれば変化する絵が作れるかを考えさせ、どちらか片方のコップに1種類のもを描き、もう一方のコップにいくつかの種類のもを描くことがよいことに気付かせた。ここで、デジタル教科書の二次元コードを見せて、題材の内容を確認させた。そうすることで、作品のイメージがつかめていない児童を取り残さないようにした。アイデアがなかなか思いつかない児童には、教科書の例を参考にさせた。車や自転車など、動きのあるものを取り入れたり、人の顔などのパーツを表現したりすることができることに気付かせた。
- ・展開場面では、活動の途中でも友達の作品を鑑賞してもよいと伝えた。「自分のアイデアを変えて表現したい」など見方や感じ方を広げて、もっとやってみようという意欲につながると考えた。
- ・終末場面では、タブレットで実際にコップを回している動画を撮影しSKYMENUに投稿する場面を設定した。自分の近くでたくさんの児童の作品が見られるという利点を生かし、変化の様子や動く仕組みを理解させたり、友達のアイデアのよさに気付かせたりできるなど、効果的であると考えた。
- ・児童が本題材の仕組みを生かして、楽しみながら主体的に発想を広げたり、表し方を工夫したりできるように、本題材を展開した。

### 《SKYMENU 活用のポイント》

- ・終末場面で、実際にコップを回している様子を動画で撮影し、SKYMENUに投稿する。そうすることで、以下の3点の利点が生じると考える。
  - ① 友達が考えた作品を全員分素早く見ることができる。  
⇒タブレットがなければ、クラス全員分を一つ一つ回すことになる。そうすると、時間がかかるだけでなく、友達が考えた作品を覚えることができない。全員の作品を一度に見ることで、友達の発想の豊かさや自分との違いなどに気付くことができると考える。
  - ② 他の学年にも紹介することができる。  
⇒生活科の学習(おもちゃの学習)などと関連させることができれば、さらに関わりを深めることができる。
  - ③ そのままSKYMENUの気付きメモで鑑賞したことを共有することができる。  
⇒2年生なので、キーボード入力が難しく、本時では動画を見ながらワークシートに記入させた。中学年以上では気付きメモを使用することで、友達の作品を鑑賞して共有することができ、効果的な学習になると考えている。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	<p>1. 教師見本を見せ、題材を知る。</p> <p>T:これはどのような仕組みで絵が変わっているのでしょうか。</p> <p>C:コップを回していると思うよ。</p> <p>C:車が動いているみたいに見えるね。</p> <p>T:どのようにすれば変化する絵が作れますか。</p> <p>C:1つのコップは1種類のものしか描いていないね。それを動かすと動きが出るね。</p>	<p>・教師見本の動画はSKYMENUの発表ノートを使用し、導入が終わったら児童に配布する。</p>	<p>・教師見本を見返すことができる環境を整えることで、仕組みを理解できていない児童に再確認させることができる。</p>
展開	<p>2. 実際に取り組む</p> <p>T:友達が作っているところを見てもいいですよ。</p> <p>C:●●くんがこうやって作っているからぼくもやってみよう</p> <p>C:OOさんの絵の動き面白いな真似したいな。</p> <p>3. 作品を動画で撮影し、SKYMENUの発表ノートで投稿する。</p> <p>T:作品が完成したら、動画で撮影してください。友達が撮影します。自分自身は紙コップを1周回してください。</p>	<p>・見本の動画を見返してもよいことを伝える。</p>  <p>・撮影した動画をSKYMENUに投稿する。</p> <p>・順に投稿された動画をもとに、作品</p> 	<p>・手立てとなるヒントを随時児童に示せるようにする。</p> <p>・順に投稿された動画を見ることで、見方や感じ方が広がっていくと考える。動画を見て作品を修正したり動画の撮り方を変えたりしたいと感じる児童もいると考える。</p> 
まとめ	<p>4. 投稿された動画をもとに作品の鑑賞を行う。</p> <p>C:この作品は自転車でぐるぐる色々な場所を回っていて面白かったな。</p> <p>C:お花が咲いたり枯れたりしていて1年間の流れが分かったよ。</p>	<p>・児童全体の作品を共有し、鑑賞を行う。自席で全員の作品を見させ、最後の共有の場で紹介された児童を大型提示装置で見せる。</p>	<p>・全員の作品を鑑賞させることで、見方や感じ方をさらに広げさせる。</p> 

## 《実践を振り返って》

- ・SKYMENU 上の動画がややぼやけるので、本体のカメラから、SKYMENU 上に保存し、発表ノートを経由すると鮮明になることがわかった。次回はその方法で取り組んでみたい。
- ・2年生の児童でも動画を撮って、SKYMENU 上に提出することは容易であるため、他教科でも応用できると考えた。
- ・動画を撮るということにフォーカスを当てすぎると、実際の題材が活かされないと思う。そのため、作品を作り終わった後、または作っている途中で動画を撮ることを説明してもよかったかもしれない。そうすることで、もっとよくしたい、改良したいという思いが生まれたのではないかと思う。
- ・動画だけだと作品のよさが分からないことがあるので、実物も持ち帰らず教室に残しておくことで、作品の仕組みやよさにもっと気付くことができたと考える。
- ・情緒学級の児童が通常級と情緒級の両方の授業に参加できるようにしたい。
- ・タブレットを忘れた児童が教員用のタブレットで動画を撮った後に、教員側のタブレットで直接該当児童の課題を提出できるようになる権限があればよいと思う。